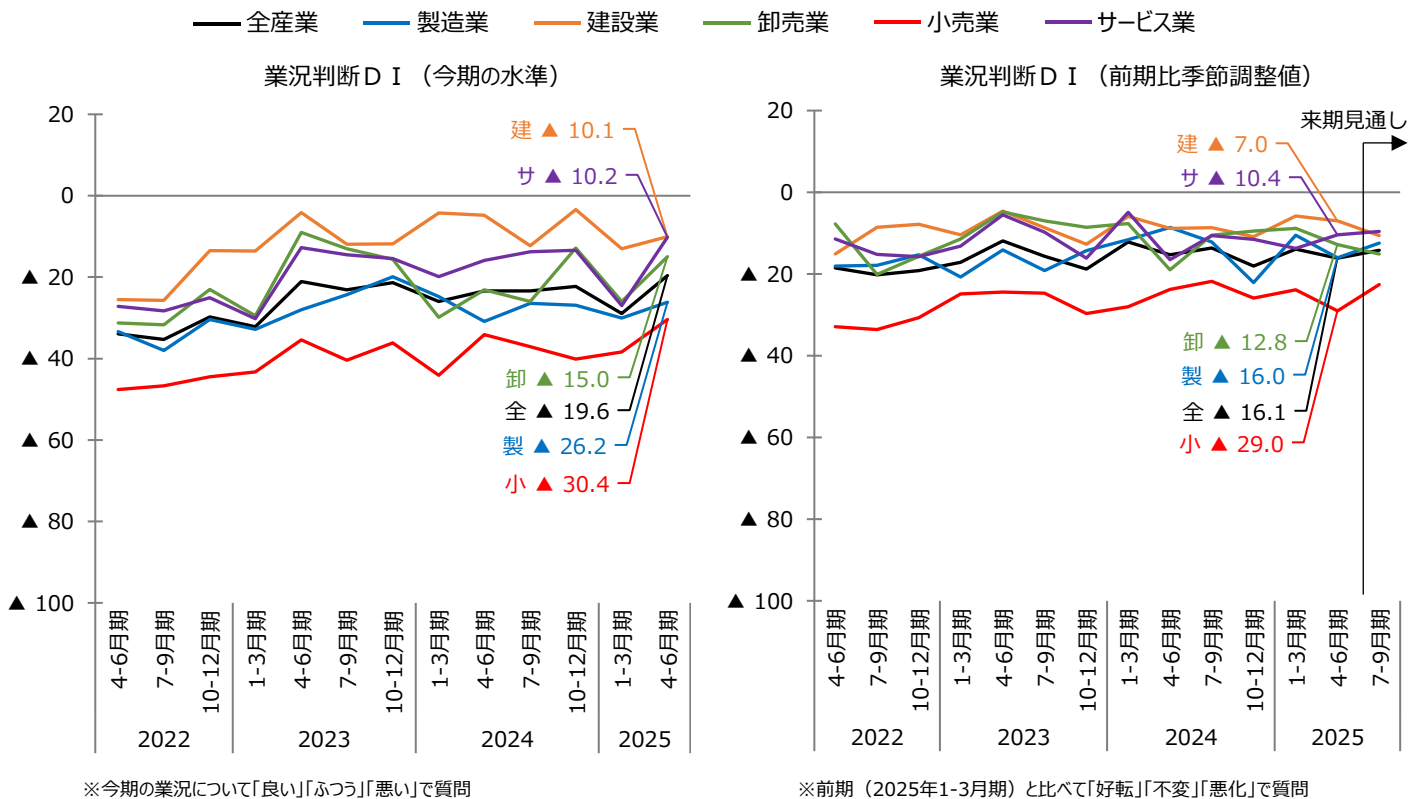


第180回 中小企業景況調査（2025年4-6月期） 四国



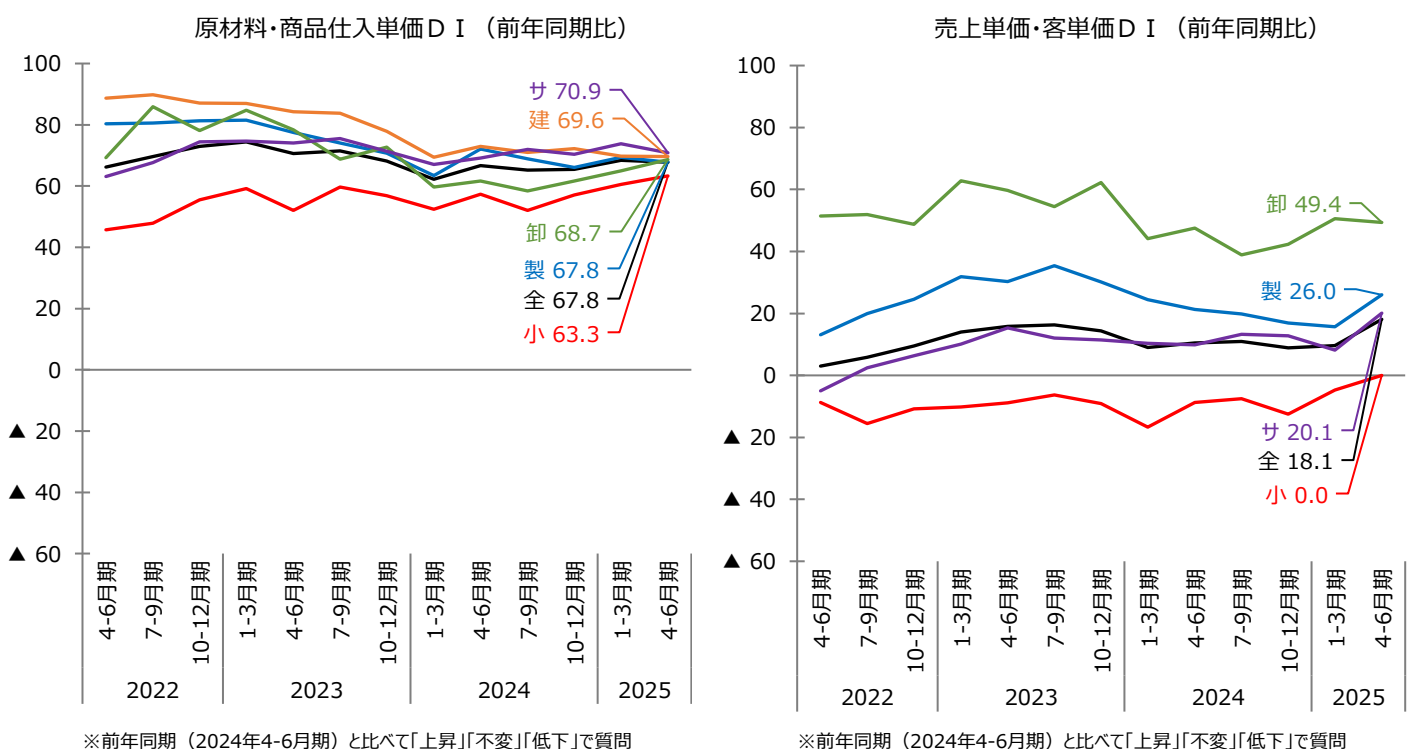
1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年1-3月期）より9.3ポイント増の▲19.6と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5業種すべてで上昇した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の67.8と3期ぶりにやや低下した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、サービス業、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より8.5ポイント増の18.1と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業
今期の調査対象企業数：18,841 有効回答企業数：17,899 有効回答率：95.0% うち、四国：1,289企業

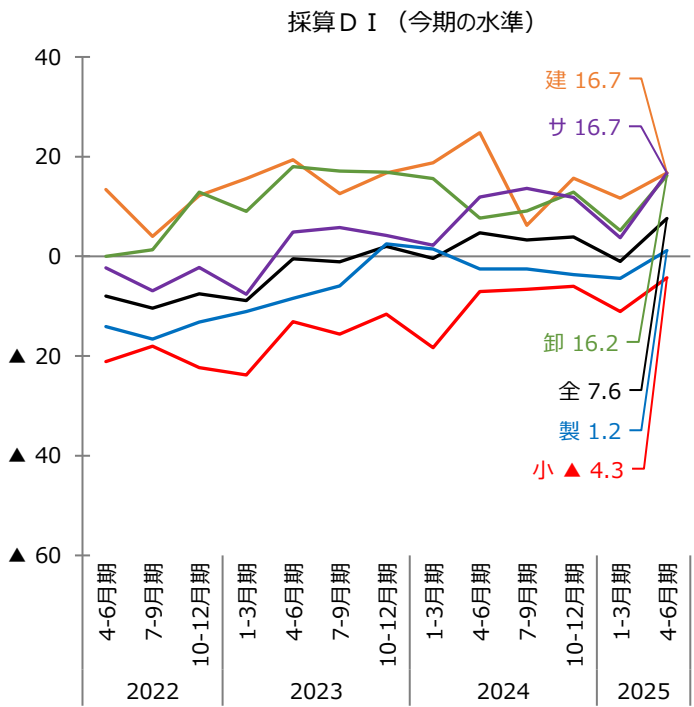
※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第180回 中小企業景況調査（2025年4-6月期） 四国



3. 採算

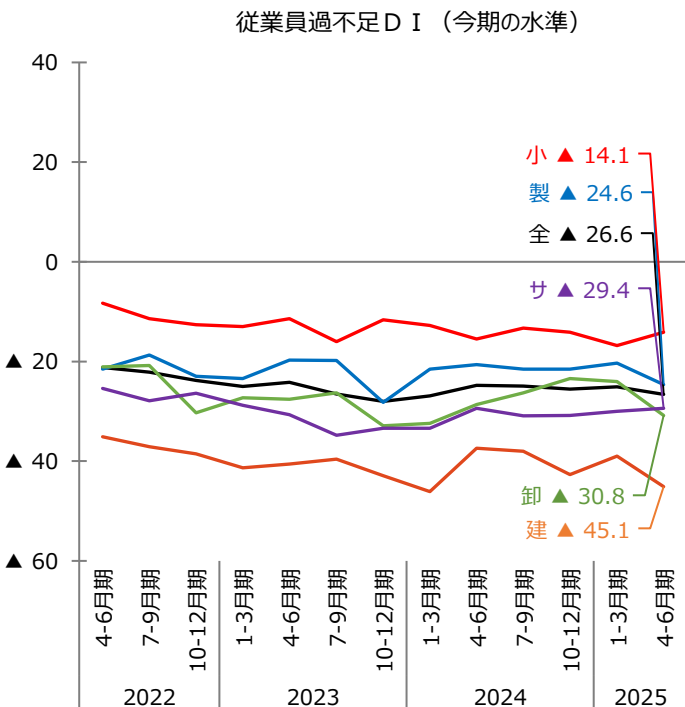
採算DIは、全産業で前期より8.6ポイント増の7.6と2期ぶりにマイナスからプラスに転じた。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.5ポイント減の▲26.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、卸売業、建設業、製造業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 四国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	原材料価格の値上りはいまだに続いている。人件費も上げる必要があり採算性は厳しい。これ以上原価が上昇するなら製品値上げの検討が必要だが、市場に受け入れられるかの懸念がある。	製造業	農業用機械製造業（農業用器具を除く）
	完成工事の増加により営業利益・資金繰りがともに好転している。従業員も増加し体制強化が進む一方、材料の仕入単価の上昇には引き続き注意が必要だろう。	建設業	木造建築工事業
	値上げの限界を感じ始めている状況である。客離れとのバランスを見ながら、値上げを進める必要があるが、外食業界、特に夜の宴会関係は需要の停滞が深刻である。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	今までの顧客の高齢化。店頭での販売が厳しい状況。ネット販売は好調だが限定商品の入荷が厳しく、又、メーカーがネット販売を禁止する物が増える。仕入れにおいては掛け率を上げてきている為利益確保が難しい。	小売業	時計・眼鏡・光学機械小売業
	イベントの時期によって波があるため、入学式等がある4月は売上が伸びる傾向にある。	サービス業	写真業（商業写真業を除く）
見通し	インバウンド客の構成が高くなっており、米国関税や円高懸念でインバウンドの動向が不安である。	製造業	めん類製造業
	若手従業員の入社もありましたが、高齢者が多く、この先数年で退職者が増える見込みであるため、技術者不足が懸念される。	建設業	土木工事業（別掲を除く）
	コンビニ・ドラッグストア等、県外の大手企業ばかり進出し、逆に県内の小売店が辞めていき、販売ルートが細くなってきた感じがする。	卸売業	その他の衣服卸売業
	商品仕入単価や人件費等すべての経費が上昇しており、現状の売上規模では先行きへ不安を感じる。今年8月に配布される地域商品券需要を取り込み大幅な売上増加に繋げたい。	小売業	各種食料品小売業
	仕入の単価、最低賃金、電気代等のコストアップがかなり経営に影響している。それを価格転嫁することができない状態にある。また、人材確保への費用を捻出できず、雇用に対する不安も大きい。	サービス業	日本料理店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。